

☆中学校の部〈特選〉

自分の弱さと向き合って

森吉中学校 一年 柏木 聡子

「バッテリー」の主人公、原田巧は自信にあふれる、天才ピッチャーだ。家族にさえ、弱みを見せないプライドの高い少年。その、巧にはバッテリーを組む永倉豪や、病弱だが強く優しい心をもつ弟の青波、いっしょに野球をする仲間を引きつけるような不思議な力がある。

巧はいつでも自分に自信をもっているが、それは、才能があるからというだけではない。毎日毎日、巧はランニングを欠かさなかった。好きなことのために、強くなるために毎日努力をしていたのだ。目標に向かって、いつもどんなときでも頑張っているから、自信をもつことができるのだろう。私は、巧のように自分に厳しくしているだろうか。巧はいつでも、今の自分に満足せずに、楽な道ではなく、大変な道を通っていた。周りの人に甘えずに、自分の弱さと向き合ってきたからこそ、そんな巧に周りの仲間たちもついてきたし、自分も頑張ろうという気持ちになったのだ。

また、巧を大きく変えたのがキャッチャーの永倉豪との出会いだ。周りに対しても厳しい巧とは対照的に、豪は誰にでも優しく、人の心を読みとることができるような少年だ。常

に、みんなのことを考えて、相手のことをよく理解している豪には、とても驚いた。私が豪だったら、時に冷酷な巧と、しっかりと向き合い理解し合うことができたのだろうか。自分とは違う考えをもつ相手にも、優しく声をかけることができだろうか。豪は本当に強い少年だ。自分の損得とは関係なく、他の人に、思いやりを忘れることなく、いつでも真剣に触れあっている。困っている人や、悩んでいる人に声をかけることは、簡単そうだが、とても勇気がいることだ。私は、自分から声をかけることが苦手で、どうしたらいいのか迷ってしまふことが毎日たくさんある。だが、豪なら、困つていたり、悩んでいる人がいたら、相手のことをよく考えて、声をかけるだろう。そんな優しく、やわらかい心をもつ人に私もなりたい。

そして、もう一人の、巧にとって大切な人物が、弟の青波だ。青波は生まれつき体が弱く、小さい頃から、病気やかぜに苦しんでいた。せき一つするのにも、周りの人への迷惑を考えて、辛い思いをしてきた青波も、大自然の中で暮らすうちに、生き生きとした顔をするようになったのだ。誰かの保護なしでは青波は生きられないと思っていた巧も、驚いたはずだ。すぐれた感性をもつ青波の目は、いつでもキラキラ輝いていた。豪と同じで、優しく誰にでも感謝を忘れない青波は、とても素直な少年だと思った。体が弱くても、兄にこがれて、野球をしたいと言う青波にはびっくりした。いつも

母親に守られて、おもいっきり遊んだりスポーツを楽しむこともできなかつた青波は、かわいそうだ。無理なことだと決めつけてあきらめずに、挑戦し、また、不安や恐れにも打ち勝とうと必死で頑張る青波の心は、本当に強く、まっすぐだなあと思った。青波のやわらかい笑い声は、いつもみんなを明るくする。木の幹の色や、梅の葉の香りまで、素直に感じる青波の心は、とても豊かだ。純粋な気持ちを持ち続ける青波のように、私も自然や人との出会いを大切にしていきたい。

巧は、豪や、青波、そして、たくさんの仲間たちを引きつけ、また、その人たちに支えられているのだろう。自分に、絶大な自信をもち、目標や夢に向かって努力し続ける巧の後には、巧を心から信じまっすぐに向き合う豪の存在や、巧に憧れ尊敬し、そして時には巧を励ます弟の青波の存在があった。

私は部活動で吹奏楽をやっているが、友達や先輩に支えられていると感じることがたくさんある。練習しても、思ったように吹けないときや、本番前に緊張してしまったときも、みんなが声をかけて励ましてくれるから頑張れるし、最後まででしつかりやりとげようと努力することができるのだ。この本を読んで、自分を支えてくれる人たちに感謝するだけでなく、自分の弱い部分に打ち勝って、私もみんなにやさしさや、元気を与えていかなければいけないということに気づくことができた。巧や、それを支え、励まし合う仲間たちは、野球

という一つのスポーツを通して、人との出会いや、どんなことがあっても、折れない強い心、そして、常に自分の気持ちや、相手とまっすぐに向き合う素直な心を学んだのだろう。巧も毫も青波もそれぞれ、本当の強さをもっていた。だから私も、苦手なことや、大変なことがあっても、そこから逃げださず、どんなことにも挑戦していきたい。私の心の中にある、迷いや恐れなどの弱い部分としっかりと向き合い、今より強い自分になりたい。そのために、人との関わりや、一つの経験を大切に、「バッテリー」の登場人物に負けないうぐらい努力していきたい。

〈講評〉

登場人物の人柄をまっすぐな目で分析し、適確にとらえ共感しながら読み進めています。登場人物の持つよさを自分の心に反映させながら読むことは大切なことだと思います。周りの人に感謝の気持ちを持つだけでなく、自分がしてあげられることを考えながら生きて行くことに気づいた聡子さん。一つ自分を大きくすることができたのではないのでしょうか。